

ウルTRASとローカルアイデンティティの関係について

渡邊 健陽

近年、スタジアム内外を問わずウルTRAS(組織化された熱狂的なサッカーのサポーター)の社会的影響力が強まっている。国内ではウルTRASによる暴力事件やスタジアム内での禁止行動が問題視され国外ではウルTRASによる麻薬密売事件や殺人事件が起こり社会的秩序を揺るがしつつある。そんな、ウルTRASというサブカルチャーは世界中で人気を獲得しつつあるがその実像ははっきりと明らかになっていない。本研究では、ウルトラオブリ(アビスパ福岡のウルTRAS、以下オブリと省略)を研究対象として、ローカルアイデンティティという観点から彼らのアイデンティティやイデオロギー、応援スタイルなどを明らかにした。

本研究では、2023年6月から2024年1月にかけてオブリのメンバー8名、一般サポーター1名に対してインタビュー調査を行い、さらにアビスパ福岡のホームゲーム1試合アウェーゲーム3試合に足を運び活動観察を行なった。活動観察は試合中のみならず試合前の準備や試合後の片付けなどにも同行させてもらった。リクルート方法はSNSからの連絡とスタジアムでの声掛けによるものだ。

本研究では、オブリが作り上げた応援文化が博多祇園山笠の慣習や「九州男児」といったキャッチーなワードを用いてサポーターのローカルアイデンティティを刺激するものであることがわかった。さらに、アルゼンチンから輸入された応援スタイルも混じわりウルトラオブリ独自の応援文化、スタイルが確立されている。また、彼らの中には「情に厚い」、「筋は通す」といった独特の価値観や規範が存在することがわかった。

彼らは関東地域に集中している資金力のあるクラブに対して地方にあるプロビンチャ(規模の小さなクラブ)としての誇りを持っていた。関東でのアウェーゲームでは特に彼らのローカルアイデンティティが表出する。ただ、最もオブリが激しい応援を繰り広げるのは佐賀県にあるサガン鳥栖とのダービーマッチであり筑後地方(福岡の市街地から遠く佐賀県にとっても近い地域)に鳥栖サポーターが多いこということに嫌悪を示す。

オブリは女性メンバーが少ない。「博多の男」というワードを好み掲げる彼らの応援スタイルと一般的な九州の人のジェンダー意識によって「オブリには女性が少ない」ということがジェンダー問題と関わっているのではないかという仮説が立てられた。調査結果は、体力的なハードルが原因であるということがわかったが九州在住のメンバーと関東在住のメンバーの間には「オブリには女性が少ない」という事象に対しての意識差が見受けられた。

(指導教員 照山 絢子)